

平成29年度 学校評価結果

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

授業改善を通して、未来を切り拓く確かな学力の定着を図る。

具体的な取組

- ・授業規律、授業のルールを教職員・生徒で徹底する。
- ・授業分析シートを活用して、授業改善を行う。
- ・研究授業を実施する。(6月教科別研修、11月学年別研修、2月合同研修)
- ・言語活動をともなうグループ活動を行い、思考力や表現力を育てる。
- ・定期テストに活用問題を出題する。
- ・「学習の手引き」を作成し、生徒が見通しを持った学びができるようにする。
- ・教科会を積極的に行い、常により良い授業改善に努める。
- ・家庭学習プリントの実施、指導、基礎テストの実施により、家庭学習習慣の定着を図る。
- ・授業内でも、家庭学習につながる課題を積極的に実施する。
- ・朝読書に継続して取り組む。
- ・総合的な学習の時間では、言語活動を生かした発表活動等を行うことにより表現力を培う。
- ・指導と評価の一体化の研究を一層進める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・校内研究や教科会による授業改善の取組
- ・生徒に対する授業アンケート（生徒による授業評価）
- ・生徒・保護者アンケートの「毎日の家庭学習に取組む時間」
- ・読書に対する意識や状況のアンケート結果

各種指標結果（1回目）

- ・授業分析シートを活用した授業改善に取り組んでいる。研究授業も計画通りに実施した。
- ・アンケート項目「授業を理解できていますか」に対して、生徒の肯定的回答（よく出来ている・大体出来ている）は83%であり、また、「家庭学習プリントに取り組んでいますか」への肯定的回答は89%であり、「家庭学習に取組んでいますか」に対する肯定的回答は78%である。一方、学習・生活に関するアンケートの「平日の家庭学習時間」結果では、「ほとんどしない」生徒が、学年により差があるが、10%～20%いる。
- ・「読書の習慣が身についていますか」に対する生徒の肯定的回答は、59%であった。朝読書にはほとんどの生徒がよく取り組んでいるが、家庭で読書をしない生徒が各学年とも50%を超える。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none">・宿題をきっかけに家庭学習の定着はすすんできているが、自分で計画を立てて学習するのが苦手で、家庭学習の時間が短いといった結果となっている。一定時間は家庭学習に取組むような指導の工夫が必要である。・全国学力状況調査の結果は、国語B、数学ABで全国平均を上回ったが、学習確認プログラムでは、全市平均を上回る学年、下回る学年と学年差が大きい結果となっている。授業や定期テストに記述式問題を出題するなど、全教科で意識して取り組んだ結果、記述問題等にもあきらめず取
------	---

	<p>り組むことができたと考えられる一方で、生徒の理解に応じた手だてをしていかねばならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生は、学校祭での自主的な活動や発表の様子、部活動での活躍等から、仲間と協力したり努力を積み重ねてやり遂げる喜びを実感している生徒が多く、これらの自信や喜びが学力向上につながっていると考えられる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の学習内容について検討し、それに伴って家庭学習時間が増えるような指導をしていく。 ・授業をはじめ学校行事や生徒会活動、部活動など様々な面で活躍の場を増やし認めながら、生徒の理解を細かく確認し、個別指導を充実させていく。多面的な指導を心がけ、学力向上を図る。 ・校内研修等において、各教員の授業を分析するとともに教員同士の交流を行い、今後も授業改善に取り組んでいく。 ・朝読書に継続して取組み、図書館の充実やビブリオバトルの取組等をとおして、読書への関心や意欲を高めていく。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年によって学力差があるのが心配だ。 ・学校での授業が安定して行われて、家庭でもちゃんと学習する指導が大切だろう。中学校の学習に関わることがほとんどないので、できる事やしてほしいことがあれば言ってもらい協力していきたい。
評価日	平成 29 年 10 月 26 日
評価者	学校評議員

各種指標結果（2回目）

- ・授業分析シートをもとに教科会を中心に授業改善に取り組んだ。学習確認プログラム等で好結果を出している教員を囲んでの自主研修会を開催し、教員の授業力向上を図った。
 - ・アンケート項目「授業を理解できていますか」に対する、生徒の肯定的回答（よく出来ている・大体出来ている）率は、3年生は前期から2ポイント上昇したが、1年生・2年生は7～9ポイント下がった。
 - ・アンケート項目「家庭学習に取り組んでいますか」に対する生徒の肯定的回答率は、前期と比較して1年生で17ポイント、2年生で15ポイント下降している。それに対して、1年生・3年生保護者の回答はやや上昇しているという結果になっている。
 - ・「読書の習慣が身についていますか」に対する生徒の肯定的回答は、59%と前期と変化はなかった。
- 朝読書にほとんどの生徒がよく取り組んでいる。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や学習確認プログラムの結果分析を、研修会や教科会で実施した。そのうえで、授業改善シートを活用してPDCAサイクルによる授業改善をすすめた。 ・授業に集中して取り組みにくい生徒が多数いるとともに基礎学力の不足、中学校内容の学習進展により、授業への理解に否定的な思いも持つ生徒が増えてきている。 ・家庭学習プリントに毎日取り組み、家庭学習習慣の確立を図った。プリントが出来ていない場合は学校で個別指導にあたり、ほぼ全員の生徒がプリントに取り組めた。保護者はプリントに取組んでいる姿を評価しているようである一方、生徒は自主的な家庭学習はあまり出来ていないと自己評価していると考えられる。
------	---

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間をとおした計画的な研修や教科会の取り組みを充実させ、教員の授業力の向上を図る。 ・各種調査等の結果をいくつかの視角からていねいに分析・共有し、PDCAサイクルによる授業改善をすすめていく。 ・家庭学習習慣の定着のために家庭学習プリントの取組を継続しつつ、その内容について、授業と家庭学習を繋いでいくものになるよう改善をすすめる。 		
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業の理解」や「家庭学習の意識」について、保護者の評価はきびしい目で見ているものになっている。それ以外でも、例えば「正しい言葉づかい」「時間を守る態度」等の項目は、保護者の評価は生徒のものより厳しい結果になっている。中学生の思春期は、親子の認識の差がでる頃だろう。 ・今後とも、学校での授業を大切にしっかりとやってほし。 		
評価日	平成 30 年 2 月 22 日	評価者	学校評議員

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>人権を尊重し、生命の大切さや人の痛みがわかる心を育て、自尊感情が豊かな生徒の育成を目指す。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導の 3 原則『挨拶・時間・掃除』を通して、<u>規範意識</u>のさらなる育成を図る。 ・生徒会活動をより活性化させ、生徒同士の絆を深め、生徒の<u>自己有用感</u>を向上させる。 ・<u>いじめ防止</u>に向けた取組指針を徹底する。 ・チャレンジ体験やファイナンスパークの取組を通して、キャリア教育を推進する。 ・人が環境を変え、環境が人を育てることを意識した校内環境整備に努める。 ・<u>道徳授業</u>における副読本の使用、持ち回り授業の実施等による指導の充実を図る。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケートの「あいさつができるか」「約束やルールは守れているか」 ・道徳授業の実施状況と副読本の活用に関する教員の認識状況 ・チャレンジ体験やファイナンスパークに関するアンケート結果
	<p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「あいさつができるか」「ルールを守ろうとする態度が身についていますか」に対する肯定的回答が、生徒 89%・92%，保護者は 71%・88% であった。 ・道徳の授業に関して、全学年で副読本を活用するとともに、資料の作成・活用にも努めている。計画的に授業を実施している。
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶やルールを守ることについて、生徒の多くが意識して実践していると考えているが、保護者は生徒の評価基準よりも厳しい目でみていることが浮かび上がっている。 ・他のアンケート項目も総合すると、すべてにおいて生徒の自己評価の基準は、保護者の基準よりも低い結果となっている。たとえば「挨拶ができるか」の評価は、保護者の基準よりも低い結果となっている。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動等のより活性化を通して、生徒の規範意識や自己有用感を高める取組をすすめる。 ・チャレンジ体験やファイナンスパークは、事前学習に取組んでいるが、今後の実施や事後指導を通してキャリア教育を推進していく。 ・道徳の授業は、今後とも計画的にすすめ、評価の在り方を含めて充実を図っていく。 				
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西陵祭（体育の部・文化の部）は、生徒が一生懸命にがんばっていてよかった。しかし、体育祭を見ると、生徒の数が少なくなったので、少しさびしい気もした。 ・あいさつをしっかりできる生徒がいる一方でそうでない生徒もいる。地域の行事への参加などを通して、地域の人と生徒が触れ合えるよう声掛けをしていきたい。地域行事に中学生がたくさん参加できるよう協力をお願いしたい。 				
	<table border="1"> <tr> <td>評価日</td> <td>平成 29 年 10 月 26 日</td> <td>評価者</td> <td>学校評議員</td> </tr> </table>	評価日	平成 29 年 10 月 26 日	評価者	学校評議員
評価日	平成 29 年 10 月 26 日	評価者	学校評議員		

各種指標結果（2回目）

- ・アンケート項目「あいさつができていますか」に対する肯定的回答率は、生徒は前期と同様、保護者は 9 ポイント上昇した。
- ・「ルールを守ろうとする態度が身についていますか」に対する肯定的回答が、生徒 92%，保護者は 89% であった。
- ・道徳の授業に関して、本年度より全学年で副読本を活用し、計画的に授業を実施している。自作資料の作成・開発もすすめている。

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをすることやルールを守ることについて、多くの生徒の意識は高く実践できているが、自己評価としてあまりできていないと考えている生徒が、前期から若干増えた。 ・道徳の授業は、学校・学年として全体で取り組めた。計画を変更して時期に合わせた内容項目にしたことも数回あった。道徳評価の研修も実施し、教員の認識も深まった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動のより充実を目指し、生徒の規範意識や自己有用感を高めていく。 ・ファイナンスパークやチャレンジ体験事業にあたり、事前・事後の学習内容と時間数を、年度当初から計画しておく。教育課程の編成・管理運営に努める。 ・道徳の計画にあたり、どの時期にどの内容項目を取り上げるか、これまでの取組を整理したうえで今後取り組んでいく。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつを気持ちよく返してくれる生徒が多い。きちんとした生徒がほとんどで、かつての中学校の状況と随分変わった。 ・生徒、保護者アンケートの結果をみると、意識のずれを見取ることができる。 ・地域行事にたくさんの生徒が参加できるよう協力してほしい。 			
	<table border="1"> <tr> <td>評価日</td> <td>平成 30 年 2 月 22 日</td> <td>評価者</td> <td>学校評議員</td> </tr> </table>	評価日	平成 30 年 2 月 22 日	評価者
評価日	平成 30 年 2 月 22 日	評価者	学校評議員	

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

生徒自らが健康で豊かな生活を実現するために、必要な知識と態度の育成を目指す。

具体的な取組

- ・積極的に部活動へ参加することにより、体力と健康管理能力の向上を図る。
- ・集団的な活動や身体表現を通じて、コミュニケーション能力を育成する。
- ・保健だより等での生徒及び保護者啓発により、基本的な生活習慣を確立させる。
- ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室、性に関する教育を継続して実施する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒・保護者アンケートの「規則正しい生活をしていますか」
- ・部活動への参加率や各部活動の活動状況
- ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室等の実施状況と感想

各種指標結果（1回目）

- ・アンケート項目「起床・食事・就寝などの時間を守る態度が身についていますか」に対して、肯定的回答は、生徒 70%，保護者 61%であった。
- ・部活動への入部率は、1年生 78%，2年生 84%，3年生 74%であり、学校外へのスポーツチームや習い事のある生徒以外は、ほとんど部活動に所属している。ラグビー部は、市内大会優勝等々の優れた結果を残しているが、どの部活動も顧問の指導のもと熱心に活動している。
- ・非行防止教室について、生徒は熱心に取り組めた。休日参観に設定して、保護者も参加しやすいように実施したが、保護者参加は少なかった。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">・学校評価や生徒アンケート等により、本校生徒の携帯所持率は高く、それに伴う使用時間の長さは、これまで同様に大きな課題である。学力向上に関わる家庭学習指導と合わせて、生徒の健康管理能力を高める取組が必要である。・部活動の運営や指導は、部活動ガイドラインに沿って適切に行われている。・部活動に休みがちな生徒が一部出てきている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none">・保健だよりを有効に活用するなどして、基本的な生活習慣の確立にむけた指導を継続的・日常的に行っていく。・部活動を休みがちな生徒や保護者への指導や連絡をていねいにしていく必要がある。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・部活動で良い成績を残してくれているのは、地域にとっても嬉しいことだ。・生徒数が少なくなつて、それぞれの部活動がどのように活動できているのか心配。・生徒の健全育成のために、地域と学校が協力することがいろいろあるのが望ましい。
	評価日 平成 29 年 10 月 26 日 評価者 学校評議員

各種指標結果（2回目）

- ・アンケート項目「起床・食事・就寝などの時間を守る態度が身についていますか」に対して、肯定的回答は、生徒 71%，保護者 61%で前期と同じ結果だった。
- ・部活動は、顧問の指導のもと、ガイドラインにそった活動日程で活動できた。ラグビー部は近畿大会準優勝、新人戦3位の好成績を残した。また、吹奏楽部は校内行事をはじめ西京ふれあい吹奏楽祭では練習の成果を披露して好評を博した。
- ・防煙教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室等、年間を通して計画的に実施し、生徒も熱心に取り組んだ。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る態度が身についていないとする生徒・保護者が約3分の1である。毎日、一定数の遅刻があり、家庭との連絡を確実に行ってきました。 ・生徒会を中心にして、時間を守る取組を行った。その期間は一定の成果が見られた。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と協力した基本的生活習慣の確立にむけた取組を継続的に行っていく。 ・保健だよりを活用した指導を、全校で統一して実施し充実させる。 ・部活動の指導に関する教職員間の連携や情報交換をすすめ、指導力を高める。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の時間に対する意識を高めることが大切だ。他のアンケート結果と同様に、保護者の評価基準の方が厳しくなっている。 ・部活動をよくがんばってくれている。小学生との交流等もあり、とてもいいことだ。 ・家庭の教育力を高めていくために、学校と地域が協力していかねばならない。
	評価日 平成30年2月22日 評価者 学校評議員

（4）学校独自の取組

重点目標
小中一貫教育の推進
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を通じた学力の向上をめざした小中一貫教育を推進するため、研究・研修を行う ・三校校長会や小中教務主任会・研究主任会・生徒指導主任会の定期開催と一貫教育推進 ・小中合同研修会や小中授業研修会の実施 ・学力分析データの活用等を通しての授業改善等学力向上の取組
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育の推進に係る主任会議や合同研修等の実施状況 ・授業研修会の実施と小中交流の状況 ・小中一貫した学力分析の実施と結果、対策の教職員全体での共有
各種指標結果（1回目）
<ul style="list-style-type: none"> ・三校校長会や小中連携会議（教務、研究、生徒指導）を定期的に開催して小中一貫教育の推進を図っている。

<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力状況調査やジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果分析を共有した。 ・夏季合同研修会にて児童生徒の実態把握に関する全体研修を行った。 		
<p>自己評価</p> <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三校校長会は定期的にもてていたが、今年は連携会議の定例化がすすみ、小中の主任の交流が深まり、取組の企画運営の中心となっている。 ・各種調査の結果分析を全教職員でより深く共有する研修が求められる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携会議が企画している今後の取組計画を全教職員で共有し、取組の質的向上を図る。 ・計画している児童生徒が交流する行事を有意義なものにする。 ・各種調査の結果分析を活用した授業改善等の学力向上の取組をよりすすめる。 		
<p>学校関係者評価</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童数生徒数が減っていることもあり、小中の連携はとても大切だと考えている。 ・地域の者は、小学校や中学校ががんばってくれているから応援したいと思っている。 ・地域としてできることや協力してほしいことは、遠慮なく言ってほしい。 		
	<p>評価日 平成 29 年 10 月 26 日</p>	<p>評価者 学校評議員</p>
<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三校校長会や小中連携会議を中心に、小中一貫教育を推進した。これまで夏季のみ年間1回の小中合同研修会であったが、秋に2回目の小中合同研修会を実施した。 ・ジョイントプログラムや学習確認プログラムの結果や分析を、小中で共有した。 		
<p>自己評価</p> <p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏季合同研修会の成果・課題を、継続・発展させる形で第2回の研修会ができた。ブロックで認識を深め、共通した取組の実践に移すことができた。教職員の意識の向上がみられた。 ・各種テスト等の分析結果を各校で活かし取組につなげていくことが必要である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの取組を継続して、小中の連携や情報交換、共通した取組をすすめていく。 ・各種調査の分析結果から必要な取組を充実させ、ブロックで共有していく。ブロック全体での取組と各校での取組を整理して教職員の認識を深め、実践をすすめていく。 		
<p>学校関係者評価</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋に小中合同で、地域美化活動が行われた。中学生が小学生の手本となり動いて、とても良い活動であった。地域も美化もすすみたいへん有難かった。こうした行事がもう少しあってよい。 ・小学生や中学生を地域から応援して、学校と一緒に育てていきたい。 ・竹の里小学校の児童数の減少だけでなく、福西小学校も少なくなっている。中学校との合同行事等、児童生徒がいろいろ感じたり経験する機会が必要だろう。 		
	<p>評価日 平成 30 年 2 月 22 日</p>	<p>評価者 学校評議員</p>